[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評 価 結 果 概 要 表

【評価実施概要】

事業所番号	4071602330
法人名	大成産業株式会社
事業所名	グループホーム　いちょうの杜合川
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市合川町１３９２－１ (電　話)　０９４２－４５－８５０５

評価機関名	財団法人　福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】(H21年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	14　人	常勤　12人，非常勤　3人，常勤換算　12.7人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨　造り	
	2　階建ての　1　階　～　2　階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000　円			円
敷　金	有　(　円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有　(100,000　円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日	1,200　円		

(4) 利用者の概要　(10月30日現在)

利用者人数		18　名	男性	3　名	女性	15　名
要介護1		1　名	要介護2	8　名		
要介護3		1　名	要介護4	5　名		
要介護5		3　名	要支援2	0　名		
年齢	平均	82.2　歳	最低	71　歳	最高	91　歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	齋藤医院･小坪内科消化器科･毛利歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの近隣には畑があって季節の作物を観賞できたり、大型スーパーマーケットもあって、気軽に買い物もできる環境にある。その近隣の畑で出来た作物をおすそ分けしてもらったり、ホームの餅付きでできた餅を配ったりと、近所付き合いが日常的に行われており、理念の一つである地域との絆を強めることに取り組んでいる。更にホームの特徴のひとつである看取り介護にもホーム設立時より取り組み、管理者と職員が利用者や家族の思いを汲み取り、出来る限り自然な形で暮らし、最期を迎えることへの体制を整えている。また、学習療法にも取り組み、利用者と職員のコミュニケーションの場となっている。このようにホームは常に努力し前向きにケアを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)** 課題について管理者を中心に職員と話し合い、改善に向けて取り組みを行っている。理念に於いては、代表者を含め検討し「地域との絆を強める…」という文言を新たに作り、ホームの目に付きやすい場所に掲示している。また、権利擁護に関する勉強会を開き全職員が周知できるよう取り組んでいる。 **今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)** 自己評価項目を職員に振り分け書き込んでもらい、管理者が取りまとめた。自己評価、外部評価を通し職員の意識が高まり、職員それぞれがサービスの質の向上に繋がると認識し取り組んでいる。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4，5，6)** 家族代表、自治会長、民生委員、包括支援センター職員、市職員、ホーム長、管理者等が出席し2ヶ月に1回開催している。会議では、利用者の生活状況やホームの取り組み状況、行事の案内等を報告し、出席者からの意見や要望も出ており、地域の情報交換の場となっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映(関連項目:外部8，9)** 家族が面会に訪れた際に要望等を表出しやすいよう職員が声をかけ、意見や思いを聴き取っている。要望等があった場合は、管理者と職員で話し合い即座に対応し家族へ報告している。玄関にはご意見箱を設置している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携** 町内会に入会し、回覧板を回したり、資源ごみ出し当番や清掃活動等に参加したりしている。ホーム側から積極的に地域に溶け込む取り組みを行い、餅つきでできた餅を近隣の方々に配ったり、ホームの行事に招待することで、近隣の方々と気軽に挨拶を交わす関係となっている。また、地域の行事へも参加しており、ホームと地域との連携は取れている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価に於いて、理念の中に地域との関係を取り入れるよう提案があり、代表者や管理者、職員で検討し「地域社会との絆を強める　貢献の人」等を盛り込んだ理念を作り上げ、ホームの目に付く場所に掲示している。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示しいつでも確認できるようにしている。管理者と職員が同時に確認する機会は設けていないが、ケアの際に利用者の表情を汲み取り職員同士で話し合い、利用者に愛情を持って接することを心がけている。	○	ホームのあり方がよく解る理念が作られており、理念に沿ったサービスを提供していることが窺えるが、職員それぞれが実践している為、管理者も交え理念について具体的にどのように取り組んでいるか確認する機会を作り、話し合うことが望まれる。
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々との挨拶は気軽に交わせる関係になっており、ホームの餅つきに招待したり、餅を配ったりしている。また、近隣の方から野菜をおすそ分けしてもらうこともある。自治会にも加入しており、町内の清掃活動や行事への参加も積極的に取り組んでいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に自己評価項目を振り分けて記入してもらい、管理者がまとめた。評価項目を確認することで、ホームの役割やサービスの向上等について理解を深め職員の意識の向上に繋がっている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表者、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、法人関係者、管理者等の出席により2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの状況や活動の報告を行っている。また、出席者からの意見や要望もあり、ホームの為に役に立つことがあれば取り組みたいとの声も上がっており、充実した会議になっていることが確認できた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	管理者等が市へ直接出向きホームの現状の報告や相談をする機会があり、いつでも気軽に話し合える関係となっている。また、市主催の勉強会にも職員等が参加しサービスの質の向上に努めている。		
7	10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	同法人のグループホームとの合同の研修を開き、職員にパンフレットを配布し周知を図っている。権利擁護に関する資料をホームの玄関に掲示し、必要な人へ説明できるようにしている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には管理者、職員が利用者の暮らしぶりや状態を必ず報告し、状態の変化があった場合も即座に報告している。遠方の家族へは電話にて報告している。ホームの新聞には、新職員の紹介や、行事の際の写真を利用者毎に載せ家族に郵送している。金銭管理に於いては、預かり金、利用明細に領収書を貼付しきちんと報告している。		
9	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に訪れた際に管理者、職員は声をかけ意見や思いを聴き取っている。要望等があった場合は、管理者、職員で話し合い即座に対応し家族へ報告している。また、玄関にはご意見箱を設置している。		
10	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は基本的に行っていない。やむ無く離職があった場合は、担当者と新職員が引き継ぎを行ったり、その他の職員も関わり利用者の状態がスムーズに把握できるようにしている。管理者は、職員の表情や声を見逃さないよう心がけ相談しやすい環境を作り、コミュニケーションを取る工夫をしている。		
5．人材の育成と支援					
11	19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあtあっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	法人全体で募集、採用しているが、年齢や性別等の条件は無い。採用後は利用者との関わりの中で職員の特技や趣味を日頃の業務で活かせるよう、レクリエーションや活動に取り込んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	**○人権教育・啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権についての研修をホーム全体で行っており、職員は全員受けている。採用時には、自分がされて嫌なことは他者にしないこと等具体的な教育を法人代表者が行っている。また、グループホーム部会にて人権学習があり、ホームからも参加した上で、資料を全職員が閲覧できるようにしている。		
13	21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は2ヶ月に1回開催しており、職員から学びたい内容を聴き取りそれを参考に研修を行っている。外部研修の案内を行い、希望により参加している。また、必要な研修への参加や資格取得の為の勉強会に参加している。	○	必要に応じ研修を受けられる体制を整えているが、年間計画を立てると、何が必要なのかが明確になったり、職員のスキルアップにも繋がるのではないだろうか。ホームの質の向上のためにも、職員の段階に合わせた研修計画が作成されることが望まれる。
14	22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会に参加しており、職員も交代で参加し研修や交流の機会がある。また、他事業所との見学会やレクリエーション会にも参加しネットワークや情報交換の場となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
15	28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方の自宅や入院先を訪問し、本人、家族と面談を行い生活歴やその他の情報収集をしている。また、体験利用は1泊2日で受け入れ、利用者や職員と触れ合うことでホームに馴染んでもらうよう工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や特技を活かし、野菜作りや生け花等職員と一緒に行っており、その際に職員が知らない知識や経験を教えてもらうことが多い。また、人生経験豊かな利用者に職員が相談してアドバイスを受けることもある。このように同じ家に住む家族のような関係が構築されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の要望等を聴き取ったり、本人との会話から思いを汲み取っている。表出が困難な利用者へは表情や行動から読み取っている。それを担当者が記録しケアへ結び付けている。	○	利用者それぞれの意向を把握し生活を支援しているが、更に本人の意向を把握する為に、アセスメントに本人の言葉や、好きなこと、思いを具体的に記録していくと計画作成時に本人の姿が更に見えてくるのではないだろうか。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族からの聴き取りと主治医からの意見を元に担当者と計画作成者が話し合い、計画を作成している。また、日常の会話や行動からも利用者の思いを汲み取り、担当者以外の職員も意見や情報を出し合っている。	○	本人の意向の把握を行う為に具体的な記録を残し、計画を作成する際に基にすることで、一層本人の状態や暮らし方が解る計画となるのではないだろうか。サービス担当者会議録に本人や家族との面談の内容や主治医との意見交換の内容等も記録することが望まれる。
19	39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画のサービス内容を毎日チェックし月に1回モニタリングを行い、3ヶ月から6ヶ月で見直し、計画を再作成している。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や受診時の付き添いを個々に対応する等、本人の希望や要望に出来る限り対応できるよう取り組んでいる。また、看取りの際の家族の宿泊体制等も整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により継続の主治医やホームの協力医への変更がある。協力医の往診は2週間に1回あり、利用者の状態の報告を行い連携を図っている。また、受診時の付き添いを行い、他科に於いても希望の医療が受けられるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作り、本人、家族に説明のうえ、家族と同意書を交わしている。ホームでの看取り介護に関して職員も周知しており、ホーム全体で方針を共有している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
23	52	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へ尊重の意を表し、丁寧でプライバシーに配慮した言葉使いをしており、利用者は穏やかな表情で過ごしている。個人情報に関わる書類等は事務所内の書庫に保管し第三者の目に触れることはない。また、利用者の写真や個人情報を使用する際の同意書を交わしている。		
24	54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に合わせ、食事や就寝時間等は自由で、それぞれが思い思いに生活している。また、本人の希望を出来る限り取り入れられるよう工夫し取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を聴き取りながら、調理担当の職員が献立を立てている。また味見や盛り付け、米を研いでもらったりと利用者の出来る力を発揮してもらっている。ホームの利用者は重度化傾向にあるが、職員は利用者と一緒に食事を摂り和やかな時間を共有している。		
26	59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の設定はしておらず、いつでも入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者に対しては、タイミングを見ながら声をかけ自然と入浴できるよう援助している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜や花の栽培、畑の草取り、洗濯物たたみ等利用者の出来る力を活かした役割がある。また、書道等の特技を活かしてカレンダー作成をしてくれる利用者もおり、本人も楽しんでいる。季節ごとに花見やビール工場見学に出かけたり、希望により利用者の自宅までドライブに出かけたりするなど、気晴らしにも工夫している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩、食材や花の苗の買い物等利用者の希望に沿って支援を行っている。また、近所へおすそ分けに行く際は利用者と職員が一緒に行き家庭の延長として援助している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には施錠はしておらず、自由に出入りできる。2階への移動はエレベーターを使うがエレベーターも自由に使用している。ホームの近くには川が流れており安全管理として玄関にセンサーを取り付け、また、警察署とも連携し利用者が安全に暮らせる工夫をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は夜間想定を含め年に2回消防署立会いの元実施している。災害時の連絡手順は作成されているが、連絡網として活用しづらいものとなっている。また、地域からの協力体制は運営推進会議で意見として上がっているが、具体的に働きかけるところまでには至っていない。	○	夜間想定の避難訓練を実施し、消防署からアドバイスを貰い徐々に避難時の動きが具体化されてきているが、ホームの形状、利用者の状態からも職員の連絡網を作成し速やかに連絡できることと地域の方々からの協力体制を確保することが望まれる。また、自然災害時の非常食等も備蓄しておく取り組みにも期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある利用者や栄養バランス等は看護師が助言し管理を行っている。食事摂取記録は全員分しており、水分チェックは必要に応じ記録し、利用者の健康管理に役立てている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
32	**83**	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの入り口には季節の花が植えられ、家庭的な雰囲気がある。廊下やﾘﾋﾞﾝｸﾞには利用者の作品が飾られ、利用者の暮らしぶりが窺える。また、ﾄｲﾚや浴室等は清潔に保たれており、利用者が気持ちよく生活できるよう配慮されている。		
33	**85**	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、入居前から愛用している椅子や小物等が置かれ、壁面には本人が作った作品や写真を飾り、本人らしい部屋で心地よく過ごせるよう工夫している。		